

■学校経営のポイント

働き方改革の決意

喜名 朝博

中教審の質の高い教師の確保特別部会が取りまとめた8月末の緊急提言を受け、文科大臣はメッセージを出し、「国が先頭に立って改革を進めます」と宣言した。さらに、9月には文科省も『「教師を取り巻く環境整備について緊急的に取り組むべき施策(提言)」を踏まえた取組の徹底等について」を通知し、教育委員会や学校に対し、できることを直ちに行うよう要請している。

余剰時間を放出する決意

授業時数については、標準授業時数を大きく上回って教育課程を編成・実施している学校が一定数存在する状況も踏まえ、全ての学校が点検をした上で、令和6年度以降の教育課程の編成に臨むこととしている。なお、可能な学校においては、来年度を待つことなく、今年度途中からであっても改善を進めるべきとしている。これにより、不測の事態に備えた余剰時間を放出することも可能となった(教育課程の一部変更を伴う場合には、教育委員会への届け出が必要になる場合もある)。

今年度の折り返しの時期となり、教務主任は教育課程の進捗状況、授業時数管理により年度末への見通しをもっているだろう。既に余剰時間が確定しているならば、学校全体や学年毎に特定日の授業カットを行うという判断ができる。ただし、家庭への事前説明は欠かせない。これまでの、授業時数と学力は相関する、授業時数の確保といった学校の呪縛から解放されよう。

学校行事を変える決意

コロナ禍で、学校行事は大きく形を変えた。それをチャンスとしてとらえ、地域等とのしがらみの中で変えられなかった行事の在り方を変えた学校がある。一方で、コロナ前の行事に戻った学校もある。

学校行事について本通知では、「学校としての体

裁を保つためのものや前例のみにとらわれて慣例的に行っている部分をやめ、教育上真に必要なとされるものに精選することや、より充実した学校行事にするため行事間の関連や統合を図ることなど、学校行事の精選・重点化を図る」こと(下線は筆者による)を求めている。確かに運動会や展覧会等は、保護者や地域にも公開し、まさに学校としての体裁を保つという意識が働いていた。また、保護者や地域だけでなく教職員にも学校行事へのノスタルジーがあり、前例にとらわれていたことも否めない。

文科省だけでなく、各教育委員会においても学校における働き方改革に関わる啓発が進んでおり、学校行事を止めたり大きく変えたりするチャンスがきている。あとは、校長の決意次第である。

「子どもたちにとって」という判断基準

昨今の学校における働き方改革は、単に勤務時間の削減といった方向に走っているように見える。学校における働き方改革の本旨は、教師の働き方を見直すとともに、子どもたちと向き合う時間を確保するためであることを忘れてはならない。また、そうでなければ保護者の納得は得られない。

余剰時間を減らすことで、子どもたちを放課後残して補充的な指導も可能になるだろう。学校行事の練習に使っていた時間も、もっと有意義に使えるはずだ。多くの時間をかけてよりよいものにするという考え方から、時間内で最善のものにするという考え方への転換が求められている。

卒業式の計画を立てる時期となった。卒業式で最も重要なのは、子どもたち一人一人に卒業証書を授与することである。儀式的行事が目指す厳粛で清新な気分を味わうというねらいを達成しつつ、子どもたちにとって最善の卒業式へと改善していきたい。

(きな・ともひろ=国士館大学教授/全国連合小学校長会顧問)

●学校管理職のリアルなお悩みを、妹尾さんと考える! <<好評発売中! >>

校長先生、教頭先生、そのお悩み解決できます!

妹尾昌俊[著] A5判/定価 2,420円

